

旧制静岡高等学校関係資料の整理作業に関する経過 報告(2011年度)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-09-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 戸部, 健, 小二田, 誠二, 岩井, 淳 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00007904

旧制静岡高等学校関係資料の整理作業に関する経過報告（2011年度）

戸部 健・小二田 誠二・岩井 淳

1. はじめに

2009年度より始まっている「大学アーカイヴズ構築に向けた初歩的整理」プロジェクト（具体的には、静岡大学人文学部所蔵の旧制静岡高等学校および静岡大学文理学部・人文学部関係資料の整理・公開に向けた作業）も今年度で3年目となる。これまでの活動内容については、拙稿「旧制静岡高等学校関係資料の整理作業に関する経過報告」（『地域研究』創刊号、2010年）、および拙稿「旧制静岡高等学校関係資料の整理作業に関する経過報告（2011年度）」（『地域研究』第2号、2012年）にまとめられているので、そちらを参照していただきたい。

今年度のプロジェクトでは、①組織体制の改変、②静岡大学文理学部・人文学部関係資料の整理作業の完了、③附属図書館所蔵の『校友会雑誌』の目録作成、④資料の展示、⑤県外のアーカイヴズへの訪問、を主な目標とし、達成に向けて努力した。その具体的な動きについて以下で紹介する。

2. 2011年度の活動

（1）組織体制の改変

作業の効率化を図るため、本年度よりプロジェクト内に文書整理グループ・物質資料グループ・『校友会雑誌』グループという3つの作業グループを置くことにした。各作業グループの作業内容は以下のとおりである。

① 文献整理グループ

人文学部A棟内の2つの資料室に所蔵されている旧制静岡高等学校および静岡大学文理学部・人文学部関連の文書資料の整理・公開に向けた作業を行う。当面の主な作業としては、詳細な目録を作成すること、資料の劣化を防ぐための処置を施すこと、各資料に整理番号および分類番号を添付すること、一部資料のスキャニングを行うこと、などが想定されている。

② 物質資料グループ

人文学部A棟内の2つの資料室に所蔵されている旧制静岡高等学校および静岡大学文理学部・人文学部関連の物質資料の整理・公開に向けた作業を行う。当面の主な作業としては、人文学部に残されている膨大な写真およびそのネガやガラス乾板のスキャニングなどが想定されている。

③ 『校友会雑誌』グループ

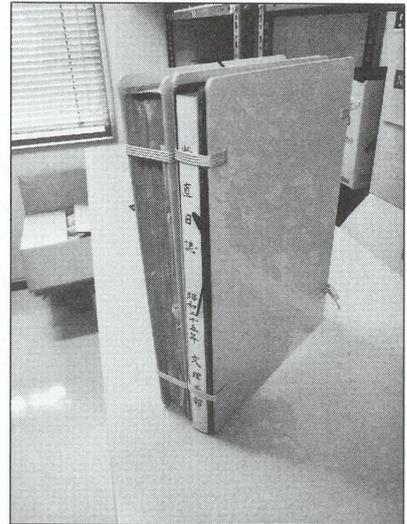
附属図書館に所蔵されている旧制静岡高等学校の『校友会雑誌』の整理・公開に向けた作業を行う。当面の作業としては、同資料の目録作成などが想定されている。

なお、プロジェクト全体の統括および資料展示については、これまでどおり湯之上隆（人文学部社会学科教授）と戸部健（同准教授）が行う。また、県外のアーカイヴズの視察についても、従来と同様、プロジェクトのメンバー全員に参加資格が与えられる。

(2) 資料の整理

①文献資料・物質資料グループ

昨年度からの懸案であった静岡大学文理学部・人文学部関係資料（学部長室前の資料室への移行分）の詳細な目録が完成した（巻末の付録 1 を参照のこと）。その上で、劣化防止のために各資料を紙秩でくるみ、それに整理番号を添付していく作業を目下学生アルバイトとともに進めている。これについても年度内に完成する予定である。これによって、同資料の整理作業は、分類番号の添付を除けば一応完成することになる（ただし、人文学部関係の資料が今後追加される可能性があるため、あくまでも暫定版である）。今後は、その公開の範囲について議論するとともに、旧制静岡高等学校関係資料の整理作業にも取りかかる予定である。（戸部 健）



資料劣化防止のための措置

②『校友会雑誌』グループ—旧制静岡高等学校校友会雑誌目次のデータ化について

旧制静岡高校は、国内有数の進学校として名をはせ、各界に多くの人材を輩出した。中でも注目されるのが、文芸に対する強い意欲である。静岡は、学問所以来、漢文学はもとより、外国語・外国文学に親しく接してきた伝統があった。また、茶貿易が盛んだった二十世紀前半は、国内屈指の国際都市でもあったから、現在の我々以上に、高等学校の生徒たちも、様々な形で欧米文化を摂取していたのではないかと想像される。こうした当時の生徒たちの文化的な生活を遺された文献で知る手懸かりになるのは、校内で刊行された様々な雑誌類である。現在、人文学部の資料室には、不揃いながら何種類もの逐次刊行物が収められている。このうち、最も重要なのが、教員・生徒が関わった、公式の文芸誌である『校友会雑誌』である。

残念ながら、資料室の所蔵は不揃いであるが、静岡大学附属図書館には、完全に揃っている。創刊は静岡高等学校（旧制）文芸部が発行して『校友会雑誌』が全て揃っている。これらを眺め渡してみると、この時代の高等学校の生徒たちの文化的な有り様だけでなく、時代の中での思考も見えてくる。大正13年に創刊された校友会雑誌は、戦時中、報国団の機関誌になると、時局に関わる文章が増える。そういう事も含めて誠に貴重な資料と言える。

そればかりでなく、現代の我々が見知っている大先達の名前も複数見つけることができる。他ならぬ“旧制静岡高校”の校友会誌だからこそその大きな特徴である。

今回は、その全体像を把握するため、さしあたり、目次をデータ化する作業を行っている。書式が不統一でもあり、データの項目を確定するのも容易ではなく、手間取る部分もあるが、基本的な入力は全て済んでいる。

今後、検索の便を良くするために表記や項目の整理を行うと共に、当時の名簿や写真、或いは現代のデータベースなどと照らし合わせながら、個々の筆者や作品についても調べることで、旧制静岡高等学校で過ごされた先人たちの青春を立体的に浮かび上がらせる事を目指している。（小二田誠二）

(3) 資料の展示

昨年度に引き続き、今年度も人文学部 A 棟玄関において資料の展示を行った。各展示のテーマと内容は以下のとおりである。

①「十年目の旧制静岡高等学校」（昨年度から引き続き）

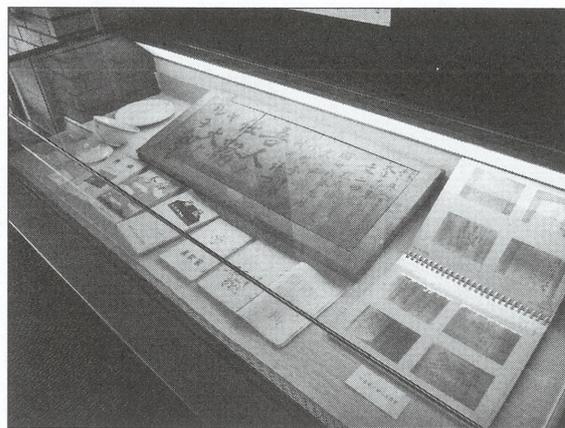
展示期間：2011年2月～

展示内容：旧制静岡高等学校十周年記念式典関係資料（祝辞原稿・絵葉書・式典準備に関する文書）など

②「仰秀寮の歩み（1）」

展示期間：2011年9月～

展示内容：仰秀寮に関する資料（戸棚の落書き、食堂の食器、図書部が刊行した雑誌、寮歌の譜面、写真パネル）など



「仰秀寮の歩み（1）」展示の様子

展示物の入れ替え作業および説明パネルの作成する過程には、学生アルバイトも参加している。

今後の展示のテーマとしては、「仰秀寮の歩み（2）」、「戦時中の旧制静岡高等学校」、「旧制静岡高等学校の廃校と人文学部への以降」などを予定している。また、以上のスケジュールの合間に、卒業生関連の展示を行うことも検討中である。

（4）県外のアーカイヴズへの訪問

昨年度は、地方の国立大学での事例を見るために鹿児島大学総合研究博物館常設展示室および熊本大学五高記念館を訪問したが、今年度も同様の目的から、2011年11月17日～19日に岩井淳（人文学部社会学科教授）が金沢市の石川四高記念館を視察した（詳しくは巻末の付録2を参照のこと）。また、2012年の2月上旬には、橋本誠一（人文学部法学科教授）が松本市の旧制高等学校記念館を訪れる予定である。

さらに、2012年3月には、湯之上と戸部が仙台市の東北大学史料館、同大学総合学術博物館などを視察する。これは、東日本大震災による資料の被害状況およびその後の取り組みについて知ること、本学での防災に役立てるためである。来るべき東海地震から大学アーカイヴズをいかに守るか。この難題に対しても、今後迅速かつ現実的な対応を行っていきたいと考えている。

なお、松本および仙台での視察の内容については次年度に報告する予定である。

（5）物品の購入

現時点で必要な物品については、昨年度までで購入がほぼ完了している。そのため、今年度はアーカイヴズに関する新刊図書・雑誌を追加的に購入するにとどめた。

3. 今後の課題

今年度の成果を踏まえて、来年度取り組むべきは以下の2点である。

①旧制静岡高等学校関係資料の整理

静岡大学文理学部・人文学部関係資料の整理については今年度で一応の目途がついたので、次年度以降は旧制静岡高等学校関係資料の整理に集中的に取り組む。まずは詳細な目録作りからはじめ、ついで劣化防止の措置を施し、整理番号を添付する。また、スキャンする必要がある資料について

も適宜選定し、電子化を進める。

物質資料の整理を今年度はあまり進めることができなかった。こちらについても、次年度以降積極的に取り組んでいきたい。また、『校友会雑誌』の整理作業についても、鋭意努力していく。

東日本大震災は、資料保存の考え方においても大きな変革を迫るものであった。本学の大学アーカイヴズにおいても、東海地震に対して現実的な備えをしておく必要があるだろう。その具体的な対処方法についても、今後検討を重ねていきたい。

②展示の入れ替え

スケジュールに基づいて、次年度以降も展示を続けていく。また、キャンパスミュージアムでも大学史の展示を行うようなので、それともうまく連携しながら進めていきたい。

(戸部 健)

(付録1) 静岡大学人文学部所蔵静岡大学文理学部・人文学部関係資料一覧(2011.2.10暫定版)

整理番号	枝番	資料名・簿冊名	年代(自)		年代(至)		作成者・著者	数量	備考
			和暦	西暦	和暦	西暦			
121	1	静岡大学文理学部 同窓会会報	昭和38年2月	1963年2月			静岡大学文理学部同窓会	1	同窓会関係
121	2	静岡大学文理学部 同窓会会報	昭和40年3月	1965年3月			静岡大学文理学部同窓会	1	同窓会関係
126	1	静岡大学文理学部同窓会名簿	昭和37年3月	1962年3月			静岡大学文理学部同窓会	1	同窓会関係。表紙に「昭和三七年二月発行」とあるが、奥付の表記を採用
126	2	同窓会名簿	昭和39年3月	1964年3月			静岡大学文理学部同窓会	2	同窓会関係
126	3	同窓会名簿	昭和41年3月	1966年3月			静岡大学文理学部同窓会	2	同窓会関係
126	4	同窓会名簿	昭和43年3月	1968年3月			静岡大学文理学部同窓会	5	同窓会関係
126	5	同窓会名簿	昭和44年4月	1969年4月			静岡大学人文学部理学部文理学部同窓会	1	同窓会関係。表紙に「昭和四四年三月発行」とあるが、奥付の表記を採用
126	6	同窓会名簿	昭和45年3月	1970年3月			静岡大学人文学部理学部文理学部同窓会	1	同窓会関係
126	7	同窓会名簿	昭和46年3月	1971年3月			静岡大学人文学部同窓会	6	同窓会関係
126	8	同窓会名簿	昭和47年3月	1972年3月			静岡大学人文学部同窓会	1	同窓会関係
126	9	同窓会名簿	昭和48年3月	1973年3月			静岡大学文理・人文学部同窓会	1	同窓会関係
126	10	同窓会名簿	昭和48年3月	1973年3月			静岡大学文理・人文学部同窓会	2	昭和47年度静岡大学人文学部卒業予定者名簿
126	11	同窓会名簿	昭和51年3月	1976年3月			静岡大学文理・人文学部同窓会	1	同窓会関係
126	12	同窓会名簿	昭和53年3月	1978年3月			静岡大学文理・人文学部同窓会	2	同窓会関係
128		同窓会名簿領収書	昭和46年4月	1971年4月	昭和47年3月	1972年3月		1	同窓会関係
129		郵便切手受払簿	昭和38年	1963年	昭和41年	1966年	文理学部同窓会	1	同窓会関係
134	1	振替通知	昭和41年	1966年				1	同窓会関係
134	2	振替通知	昭和42年	1967年				1	同窓会関係
134	3	振替通知	昭和43年	1968年				1	同窓会関係
134	4	振替通知	昭和45年	1970年				1	同窓会関係
135	0	支払決議書	昭和40年	1965年	昭和45年	1970年		6	同窓会関係
135	1	支払決議書	昭和41年4月	1966年4月	昭和42年4月	1967年4月		1	同窓会関係
135	2	支払決議書	昭和42年4月	1967年4月	昭和43年3月	1968年3月		1	同窓会関係
135	3	支払決議書	昭和43年4月	1968年4月	昭和43年11月	1968年11月		1	同窓会関係
135	4	支払決議書	昭和44年5月	1969年5月	昭和45年3月	1970年3月		1	同窓会関係
135	5	支払決議書	昭和45年4月	1970年4月	昭和46年1月	1971年1月		1	同窓会関係
136	1	収入計算書	昭和41年4月	1966年4月	昭和42年4月	1967年4月		1	同窓会関係
136	2	収入計算書	昭和42年5月	1967年5月	昭和43年4月	1968年4月		1	同窓会関係
136	3	収入計算書	昭和43年4月	1968年4月	昭和43年11月	1968年11月		1	同窓会関係
136	4	収入計算書	昭和44年5月	1969年5月	昭和45年4月	1970年4月		1	同窓会関係
137		収入支出計算書	昭和46年9月	1971年9月	昭和48年3月	1973年3月		1	同窓会関係

148	1	岳一静岡大学文理・人文学部同窓会報 第2号	昭和56年3月	1981年3月			静岡大学文理・人文学部同窓会	1	同窓会関係
148	2	岳一静岡大学文理・人文学部同窓会報 第8号	昭和62年3月	1987年3月			静岡大学文理・人文学部同窓会	2	同窓会関係
198	1	日誌	昭和25年1月	1950年1月	昭和25年12月	1950年12月	文理学部庶務係	1	
198	2	日誌	昭和26年1月	1951年1月	昭和26年12月	1951年12月	文理学部庶務係	1	
198	3	日誌	昭和27年1月	1952年1月	昭和27年12月	1952年12月	文理学部庶務係	1	
198	4	日誌	昭和29年1月	1954年1月	昭和29年12月	1954年12月	文理学部庶務係	1	
198	5	日誌	昭和30年1月	1955年1月	昭和30年12月	1955年12月	文理学部庶務係	1	
198	6	日誌	昭和31年1月	1956年1月	昭和31年12月	1956年12月	文理学部庶務係	1	
198	7	日誌	昭和32年6月	1957年1月	昭和32年12月	1957年12月	文理学部庶務係	1	
198	8	日誌	昭和33年1月	1958年1月	昭和33年12月	1958年12月	文理学部庶務係	1	
198	9	日誌	昭和34年1月	1959年1月	昭和34年12月	1959年12月	文理学部庶務係	1	
198	10	日誌	昭和35年1月	1960年1月	昭和35年12月	1960年12月	文理学部庶務係	1	
199	1	当直日誌	昭和25年1月	1950年1月	昭和25年12月	1950年12月	文理学部	1	
199	2	当直日誌	昭和30年1月	1955年1月	昭和30年12月	1955年12月	文理学部	1	
199	3	当直日誌	昭和31年1月	1956年1月	昭和31年12月	1956年12月	文理学部	1	
200		当直証印簿	昭和25年1月	1950年1月	昭和25年12月	1950年12月	文理学部	1	
201		静岡大学概算書 静岡大学設置申請書附冊(保存用)							
202		出張命令綴	昭和24年7月	1949年7月	昭和25年3月	1950年3月	文理学部		
204		科学奨励費補助・人文科学奨励費補助	昭和15年	1940年	昭和27年	1952年	文理学部		
205		評議会	昭和24年12月	1949年12月	昭和25年11月	1950年11月	文理学部		
231	1	会計通知簿	昭和27年	1952年	昭和29年	1954年	文理学部	1	
231	2	会計通知簿	昭和33年3月	1958年3月	昭和34年4月	1959年4月	文理学部庶務係	1	
232		静岡大学一般教養委員会	昭和25年	1950年	昭和26年	1951年	文理学部一般教養委員会	1	
233	1	郵便税受払簿	昭和30年度	1955年度			文理学部	1	
233	2	郵便税受払簿	昭和25年度	1950年度			文理学部	1	
234		来翰受付簿(書留小包用)	昭和30年7月	1955年7月	昭和30年12月	1955年12月	文理学部	1	
239		物品管守簿	昭和29年4月?	1954年4月?			文理学部庶務係		
240		公文書收受発送簿(本部)	昭和30年1月	1955年1月	昭和30年12月	1955年12月	文理学部	1	
241		文書送付簿(各庁)	昭和28年1月	1953年1月	昭和31年2月	1956年2月	文理学部	1	
242		来翰受渡簿 当直用	昭和31年1月	1956年1月	昭和31年12月	1956年12月	文理学部		
243		学校施設使用願	昭和26年1月	1951年1月	昭和29年12月	1954年12月	文理学部	1	
428		公文書收受発送簿	昭和25年1月	1950年1月	昭和25年12月	1950年12月	文理学部	1	
440		超過勤務休日勤務夜勤命令簿	昭和27年1月	1952年	昭和27年1月		文理学部	1	
441	1	出張命令綴 附婦任届	昭和25年4月	1950年4月	昭和26年3月	1951年3月	文理学部	1	
441	2	出張命令綴	昭和27年4月	1952年4月	昭和28年3月	1953年3月	庶務係	1	
441	3	出張命令綴	昭和28年4月	1953年4月	昭和29年3月	1954年3月	文理学部	1	
441	4	出張命令綴	昭和30年4月	1955年4月	昭和31年3月	1956年3月	文理学部	1	
441	5	出張命令綴	昭和31年4月	1956年4月	昭和32年3月	1957年3月	文理学部	1	
441	6	出張命令綴	昭和27年4月	1952年4月	昭和32年5月	1957年5月	文理学部	1	

447		芙蓉会綴	昭和27年8月	1952年8月	昭和36年3月	1961年3月	文理学部	1
448		昭和40年度以降芙蓉会礼状・領収書綴	昭和40年5月	1965年5月	昭和51年2月	1976年2月	人文学部	1
449		教官人事	昭和31年6月	1956年6月	昭和36年4月	1961年4月	文理学部	1
450		臨時職員	昭和26年	1951年1月	昭和31年	1956年	文理学部	1
451		臨時職員綴	昭和31年	1956年	昭和34年	1959年	文理学部	1
452		特殊郵便物(小包郵便・特殊取扱(書留・速達・配達証明etc)受渡簿 当直用	昭和33年1月	1958年1月	昭和34年12月	1959年12月	文理学部	1
454	1	超過勤務命令簿	昭和30年4月	1955年4月	昭和30年6月	1955年6月	文理学部	1
454	2	超過勤務命令簿	昭和32年1月	1957年1月	昭和32年3月	1957年3月	文理学部	1
455		寄付物品	昭和3年2月	1928年2月	昭和32年10月	1957年10月	文理学部	1

(付録 2) 石川四高記念館調査報告資料

石川四高記念館

住所：金沢市広坂2丁目2番5号

展示室開館時間：9:00～17:00(入室は16:30まで)

休館日：年末年始

入場料：無料

石川四高記念館は、2008年4月に設けられた「石川四高記念文化交流館」の一部である。文化交流館は、旧制四高の歴史と伝統を伝える石川四高記念館と石川県ゆかりの文学者の資料を展示する石川近代文学館から成り立っている。文化交流館の正門から入って左側半分が石川四高記念館で、右側半分が石川近代文学館である(写真参照)。記念館は入場無料、文学館は有料(一般個人350円)となっている。

赤煉瓦で覆われた文化交流館の建物は、1889(明治22)年6月に起工し、1891(明治24)年7月に完成した旧制第四高等中学校本館として建設され、1894(明治27)年には第四高等学校の本館となった。建物は、金沢城や兼六園のすぐ近く、金沢市内の中心部に位置することから、「学都」金沢のシンボリック的存在として親しまれてきた。第四高等学校は、学制改革により1950年に閉校したが、建物はそのまま残り、1969年には重要文化財の指定を受けた由緒正しいものである(写真参照)。四高の機能の大半は現在の金沢大学に引き継がれた。1949年に発足した金沢大学は、当初、市内中心部の城内にあったものの、1989-94年に金沢市郊外の角間キャンパスへ移転し、現在に至っている。金沢大学は郊外に移転したが、かつて旧制高校が存在した場所に石川四高記念館はあり、旧制高校の歴史と伝統を来訪者に生き生きと語りかけてくれる。

石川四高記念館の展示は、「四高 その時代と人々」「北の都に」「北辰会」と「南下軍」「超然」とした学生生活」という四つのテーマに即した四展示室からなっている。第一室「四高 その時代と人々」は四高生と金沢市民との関わりを中心にガイダンス展示を行い、第二室「北の都に」は四高設立の経緯から閉校までの明治・大正・昭和の歴史を通時的に概観している。第二室では、1887年の開校式にあたって、地元有志者が寄贈したというブリタニカが展示されている。当時貴重だった百科事典の贈与から、四高への期待の高さが伝わってくる(写真参照)。第三室「北辰会」と「南下軍」は、四高生の学生生活を運動部の活動を中心に追う。ここでは、教授陣の中でも著名だった哲学者・西田幾多郎の『善の研究』が展示されている(写真参照)。第四室「超然」とした学生生活」は、学生の自治的な寮生活や四高の校風を、何事にもとらわれない「超然」という言葉をキーワードに紹介している。

筆者が訪問した2011年11月17-19日は、金沢にしては比較的暖かな気候だった。石川四高記念館は、石川近代文学館とともに、石川県の管轄になっており、常勤と非常勤の職員によって運営されている。石川四高記念文化交流館の総務課担当課長の高橋裕さんからは、直接お話しを聞くことができ、とても有益であった。篤く御礼申し上げたい。なお、隣接する石川近代文学館にも、「四高が育んだ多彩な才能」という展示室があり、四高出身の文学者・中野重治、森山啓、井上靖、杉森久英、高橋治に関する貴重な資料を目にすることができた。来訪する方は、石川四高記念館と石川近代文学館を、あわせて見学することによって、より具体的に四高の歴史と伝統を知ることができるだろう。

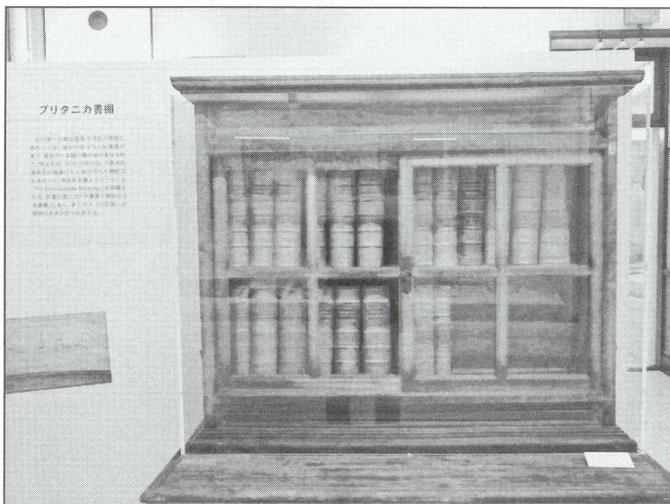
(岩井 淳)



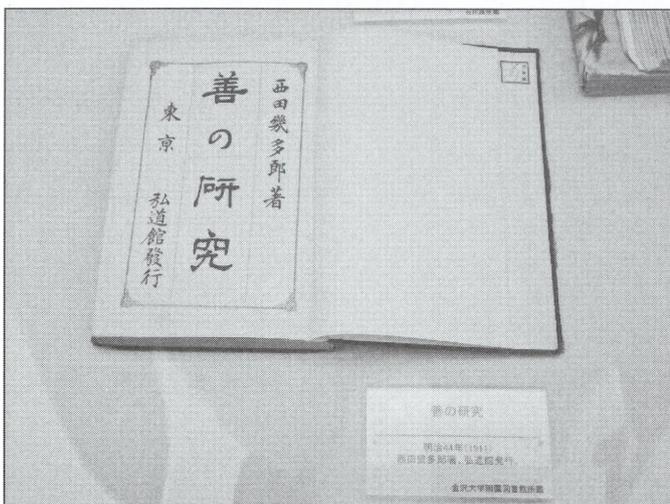
正門から見た石川四高記念館



重要文化財指定の
石川四高記念文化交流館



ブリタニカ書棚



西田幾多郎著『善の研究』